

2. 高校2年

「国際理解・人権・平和」—沖縄から世界を考える—

仲田 恵子・齊藤 真子
西川 陽子・飯島 幸久・佐藤 俊樹
米田 関一・丸山 豊

【抄録】 高校一年では、学年テーマ「生命と環境」のもと個人テーマで個人研究をし研究論文をまとめた。高校二年生では、三泊四日の沖縄研究旅行への取り組みが中心となるが、学年テーマ「国際理解・人権・平和」のもと、グループが重視されフィールドワークもグループ研究となる。一年を通じて生徒相互の協力関係と自主的な活動の取り組みから、創造的な表現力や総合的な実践力が培われた。

【キーワード】 総合学習 テーマ授業 教科（英語）との関連 自主的な活動 フィールドワーク 沖縄研究旅行

1. 学年テーマについて

従来、高校二年生の「学年テーマ」は「平和」を中心に設定されてきた。だからグループ研究のテーマには皇民化教育や沖縄戦・基地問題・環境問題を取り上げる事が多かった。今年度は「平和」を根底に置くが「国際理解・人権」問題にも注目し、現代の沖縄がかかえる問題点を掘り下げることで、幅広く現代社会と世界の人々のさまざまな問題を考え研究することができると考えた。そして研究旅行後にそれぞれのグループ研究を通じて一人一人が考えたことをディスカッションすることにより、「国際理

解・人権・平和」につながる問題の解決方法が、沖縄にだけあるのではないことや、日常の生活の中に、自分にも出来ることがあるという事に気づいていくことが出来るということで「国際理解・人権・平和—沖縄から世界を考える—」というテーマを設定した。

(1) 指導体制

- ①「総合人間科旅行委員会」の生徒による実行委員会体制 (総勢19名)
②学年担任団による学年プロジェクト体制

第1回 総合人間科 オリエンテーション 4.18.1998
総合人間科委員会

1. 高校2年生テーマ：
「国際理解・人権・平和」—沖縄から世界を考える—

2. テーマについて

高校2年生では、大きなテーマを「国際理解と人権・平和」として、2学期に研究旅行で訪れる沖縄を学習の場として、国際理解・平和・人権の問題について考えていきたい。

サブテーマの「沖縄から世界を考える」とは、昨年度の研究によって得た問題意識をもとに、沖縄学習を通して「国際理解・人権・平和」を学びながら、さらに視野を世界に広げることをねらいとしている。

3. 学習方法の形態

集団学習：男女混合の6～7名のグループで学習を行う。グループは1学期、2学期以降と、2回組み替える。総合人間科委員がリーダーシップをとって企画運営する。

総合人間科委員 名簿

A組	虫鹿里佳・伊藤絵美・宮川舞子・田頭昭子・谷口翼
B組	村瀬智江・谷口紫香子・石黒冬子・岩月あい
C組	川島英里子・田村怜子・角田誠治・小崎好美
教員	*齊藤 *仲田 飯島 西川 佐藤 米田 丸山

*研究委員

4. 年間学習計画

1学期—テーマ授業グループ作り、テーマ研究と授業、研究旅行グ

ループ作り研究旅行の準備（旅行のしおり）
夏休み—研究テーマ決定のための資料収集、読書感想文
2学期—テーマ討論、旅行のしおり編集、沖縄研究旅行、フィールドワーク、研究のまとめ①資料整理
3学期—研究のまとめ②原稿作成、研究発表、高1への報告会、研究集録編集

5. 1学期計画

授業日	学習内容	備考
1 4/18	オリエンテーションとテーマ授業の準備 全体への説明と、各クラスでのテーマ授業への準備。グループとテーマを4/23までにSTなどで決める	授業参観日
2	班ごとの指導教官発表の後、指導教官と 顔合わせ、テーマ確認とアドバイス	LT, STを使う
3 5/30	班ごとに指導教官のもとで調査研究、発表の準備	
4 6/6	班ごとに指導教官のもとで発表の準備	
5 6/20	テーマ授業 3つの班が発表、評価	委員が司会
6 7/4	テーマ授業 3つの班が発表、評価	委員が司会

※上記のほかに、できれば名古屋大学の教育学部の先生によるお話を入れます。

※夏休み前に学習の指示、参考図書の指示を行います。

2. 高校2年 「国際理解・人権・平和」 沖縄から世界を考える

- A組 仲田恵子（英語） 斎藤真子（国語）
B組 西川陽子（生物） 飯島幸久（体育）
C組 佐藤俊樹（地理） 米田閑一（音楽）
丸山 豊（日本史）

四月のオリエンテーションから研究集録の完成まで基本的には「総合人間科」の指導体制に前年度との大きな変更はない。

活動の中心になるのは、総合人間科旅行委員の生徒達である。高校一年生の時より実行委員の自主的な活動の部分が増えている。企画段階から実施・反省まで委員会が分担する。担任団はアドバイザーである。

(2) 学習内容と方法の四本柱

- ①事前学習 「テーマ授業」・事前学習プリント
学校祭の「総合人間科展示」
- ②映画「月桃の花」と教育学部「植田先生の話」
- ③フィールドワークと研究発表会
- ④高1への報告会 研究集録 ディスカッション

「総合人間科旅行委員会」実行委員による自主的な取り組みが中心である。また個人研究である高校一年生の時と違って、高校二年生はグループ研究を中心のことから「テーマ授業」(一学期)と「フィールドワーク」(二学期)では班編成をかえた。班は各クラスごとに6班の編成である。グループ研究

では、話し合うことが大事で、研究活動にはチームワークが必要となる。だから、研究活動とともに「学び合い」の人間関係をつくってゆくことになる。

(3) 学習の経過

年間の学習計画は次のように立てた。1学期には、テーマ授業グループ作り、テーマ研究と授業、研究旅行グループ作り、研究旅行の準備(旅行のしおり)。夏休みには、研究テーマ決定のための資料収集、参考図書の読書、読書感想文。

2学期には、テーマ決めディスカッション、訪問先選定ディスカッション、旅行のしおり編集、沖縄研究旅行、フィールドワーク、研究のまとめ(1)、資料整理。3学期には、研究のまとめ(2)、原稿作成、研究発表、高1への報告会、研究集録編集。

1学期の「テーマ授業」や2学期の「班研究テーマ」「訪問先選定」の際は、班ごとにグループ・ディスカッションを何度も行った。「研究テーマ」についてのディスカッションでは特に以下の点に留意して班長が司会進行した。

ディスカッションのポイント：よく班で話し合って決める、全員で取り組める内容にする、研究旅行にふさわしい研究テーマを選ぶ、高2の「平和・人権・国際理解－沖縄から世界を考える」というテーマに関連した研究テーマであることが望ましい、全員の意向をたずねる、候補の研究テーマのそれぞれ

1学期の取り組み 「テーマ授業」について

6. 4月18日(土)のオリエンテーション
2限…前半30分：3クラス合同のオリエンテーション(第1体育館)
オリエンテーション用プリントの準備
…後半20分：クラスごとに、希望テーマの調査、班づくり

7. 生徒による「テーマ授業」

- 各クラス6グループ編成とし、それぞれのグループに指導教官が一名ずつきます。
グループで一つのテーマについて研究し、30分間授業をします。
調査・発表することによって沖縄や、人権、平和、国際理解についての理解を深め、学んだ内容をクラスに伝えて共有します。
・研究旅行でのグループ研究の事前の練習を行います。
・沖縄研究旅行の事前学習を実施します—研究テーマは後記の例参照。
・沖縄研究旅行の準備として、研究の方法・発表の仕方を学びます。
・班員の役割分担を決め、全員で協力して調査し発表する方法を学びます。
・発表の工夫—ビデオ、OHP、提示機器などを活用した発表を行います。

8. テーマ例

テーマ	テーマの例
人 権	安保条約、地位協定、米軍基地と人権の問題、基地の及ぼす影響など
国際理解	日米の考え方価値観の違い、国際政治、米軍基地の意義など
平 和	沖縄戦の事実と背景、地上戦、ひめゆり部隊、現在の世界情勢、難民など

教 育	戦争中の皇民化教育、アメリカ占領下の教育など
民 族	歴史、宗教、生活習慣、年中行事など
文 化	沖縄民話、音楽、文学、伝統工芸、建物、歌謡、踊り、食文化、琉球文化、沖縄方言など
産 業	基地経済、観光リゾート、サトウキビ・パイナップル産業など
自 然	沖縄の気候風土、動植物、環境破壊、リゾート開発など
女 性	朝鮮従軍慰安婦、米軍の犯罪行為など
ボランティア	国内のボランティア活動、青年海外協力隊、アジア・アフリカで活躍するボランティア団体など

9. 班づくり

まず、総合人間科委員より、各テーマについての説明を聞いた後、各自が興味のあるテーマを2つ選び、第1希望、第2希望を用紙に書く。旅行委員はその用紙を集めて、整理し、班づくりをする。構想としては、自分の興味のあるテーマのところに仲間が集まり、そのテーマごとに6名～7名の混合グループを作る。男女の数はこだわらない。4/23までにST、LTなどで班とテーマを決めて、その後、指導教官が決まる。5月には指導教官のアドバイスを受けて準備にとりかかる。

10. 発表授業の予定と評価

1グループ30分で授業をする。6月20日と7月4日の総合人間科の授業でそれぞれ3グループずつ発表。最後に自己評価、相互評価、教師の評価を記入する。

について、その研究テーマの重要性、問題点などさまざまな視点から意見交換をする。

ディスカッション活動については個人評価を行った。

2. 事前学習としての「テーマ授業」の取り組み

「総合人間科」実行委員によるテーマ紹介と質疑応答の後に、授業テーマの希望を取り、実行委員が調整しクラスごとに「テーマ授業」に取り組んだ。テーマは沖縄に限定することなく、幅広く設定した。授業のねらいと内容に工夫した班もあれば、調べることに精一杯で説明が分かりにくかった班もあった。

「テーマ授業」によって、授業のねらいをはっきりさせることの難しさや授業を組み立てることの面白さを知ることができた。また15分の時間の使い方や分かりやすい説明方法はどうすればよいかなど、班のチームワークをつくる点でもよい経験になった。

（1）「テーマ授業」の沖縄関連のテーマ例

テーマ授業の沖縄関連のテーマ例として以下のようなテーマを参考に示した。

人 権	（安保条約、地位協定、米軍基地と人権の問題、基地の及ぼす影響など）
国際理解	（日米の考え方価値観の違い、国際政治、米軍基地の意義など）
平 和	（沖縄戦の事実と背景、地上戦、ひめゆり部隊、現在の世界情勢、難民など）
教 育	（戦争中の皇民化教育、アメリカ占領下の教育など）
民 族	（歴史、宗教、生活習慣、年中行事など）
文 化	（沖縄民話、音楽、文学、伝統工芸、建物、歌謡、踊り、食文化、琉球文化、沖縄方言など）
産 業	（基地経済、観光リゾート、サトウキビ・パイナップル産業など）
自 然	（沖縄の気候風土、動植物、環境破壊、リゾート開発など）
女 性	（朝鮮従軍慰安婦、米兵の犯罪行為など）
ボランティア	（国内のボランティア活動、青年海外協力隊、アジア・アフリカで活躍するボランティア団体など）

（2）「テーマ授業」のグループ作り

まず、総合人間科委員の生徒より、上記の参考テーマ例についての説明を聞いた後、生徒が各自興味のあるテーマを2つ選び、第1希望、第2希望を用紙に書いて旅行委員はその用紙を集めて、整理し、

班づくりをした。構想としては、共通の興味を持つ仲間が集まり、テーマごとに6名～7名の混合グループを作る。男女の数はこだわらない。班とテーマが決まった後、指導教官が決まる。5月には指導教官のアドバイスを受けて準備にとりかかった。

（3）「テーマ授業」の発表

実際には、テーマを沖縄に限定する必要はないので生徒たちは自由にテーマを設定した。以下は各班の選んだテーマである。

「ナチスについて」、「沖縄方言・民話」、「リゾート産業と自然破壊」、「沖縄の基地」、「差別と人権」、「沖縄の動物」、「琉球文化について」、「国外のボランティア」、「沖縄における皇民化教育」、「沖縄そば」、「リゾート開発」、「日本の基地研究」、「星座」、「イスラムの人々」、「安保条約」、「パイナップル産業」、「ガイドライン」、「音階」。指導教官のアドバイスを受けながら準備し、ビデオ、OHP、プレゼンター、B紙、プリント、アンケートなどを活用して発表方法を工夫した。発表後に自己評価、相互評価、教師の評価を行った。

3. 「フィールドワーク」の新しい取り組みとその課題

（1）新しいフィールドワークの訪問先

①「アメラジアン」をテーマにした二つの班

研究旅行後のフィールドワーク発表会は「アメラジアン」問題で白熱した。それは「アメラジアン」をテーマにフィールドワークをした二つの班の報告が正反対であったからだ。女性問題・差別問題・教育問題・基地問題など、フィールドワーク先の違いにとどまらず、お話を聞いた人の意見や現地でのアンケート調査などの研究方法の違いなどが、その背景にある。そして、アメラジアンスクールを訪問したA組の4班のメンバーは三学期に全校朝礼で訴え、募金活動を行なった。そしてそのお集まつたお金をアメラジアンスクールに送った。小学生が百科辞典で学んでいたりトイレットペーパーは親たちの寄付でまかなうというスクールの実態を見きし、子供達と交流したからである。

②普天間高校の生徒との交流会と

美里高校でのアンケート調査

二つの班が沖縄の高校を訪問した。同世代の考え方を知るためにある。交流会で話し合ったり

2. 高校2年 「国際理解・人権・平和」 沖縄から世界を考える

高校生の意識の違いを調べた。生まれた時から基地とともに生活する高校生の実感が、県民投票の結果と同じだという指摘は意味がある。

③議員さんとの意見交換

基地問題については、二つの班が議員として活動をしている新垣さん、知花さんに直接会い、お話を聞いたり意見の交換をした。基地問

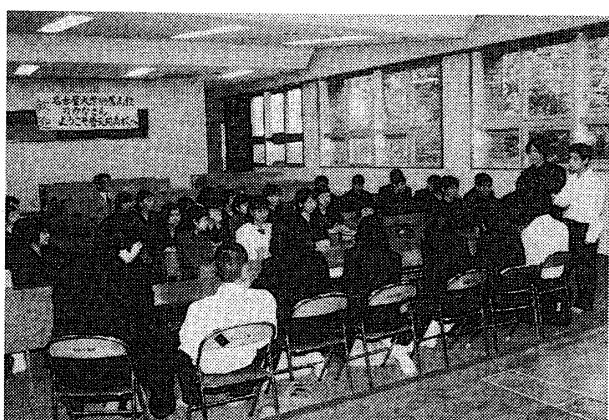
長寿食の実習（琉球大学家政学科 金城研究室）



ヘリポート建設阻止協議会「命を守る会」でお話を聞く



普天間高校での交流会



題だけではなく、その生き方や考え方と共感するものが多かった。

④嘉手納基地と嘉手納ハイスクールの訪問

基地で働く人やハイスクールの生徒との交流は生徒たちの米軍基地に対するイメージを180度変えた。

⑤琉球大学の研究室訪問と実習

サンゴの白化現象についてお話を聞いたり、長寿食の実習を実際に研究室でした。

（2）個人研究の高1からグループ研究の高2へ

「去年は本当によかったです。自分の好きな研究が出来た。テーマも、調べ方も、どこへ行くのかも全部自分で決めれば良かった。今年は苦労することばかりだ」 個人研究の高1からグループ研究の高2へと変わって、今年はどの班でも上記のような不満や愚痴がでました。一学期の「テーマ授業」は、興味関心のあるもの同士の班でしたから比較的よかったですですが、二学期の「フィールドワーク」の班での話し合いでは、テーマ決めの話し合いで、どちらも譲らず難航した班が出ました。自分の「テーマ、調べ方、訪問先について」頑固なほど自信を持っていることはいいことであるが、相手もそうであること認め、話し合いで調整することには予想外の時間がかかるし、時に第三者が必要になる。それはアドバイザー役の指導教官であったり、クラスの総合人間科旅行委員であったりする。「グループで学び合う人間関係作り」への生徒の意識の持ち方への配慮が大切である。また、これらのグループ研究の経験を通して、個人研究のよい点、悪い点とともにグループ研究のよい点、悪い点とその成果について、理解することが出来る。

4. 「総合人間科旅行委員会」の新しい取り組み方

- ①事前学習プリントと映画「月桃の花」
- ②千羽鶴のリース作り
- ③平和セレモニー（群読形式）

旅行委員会の事前学習係りの担当する仕事は、沖縄研究旅行で全員が一緒に回るコースの訪問地について皆がよく知っておくために、「事前学習プリント」を作成することから始まった。朝のS.T.を利用して、

説明とクイズ形式のテストからなる「事前学習プリント」は、係りが採点し優秀者には賞品が出る。

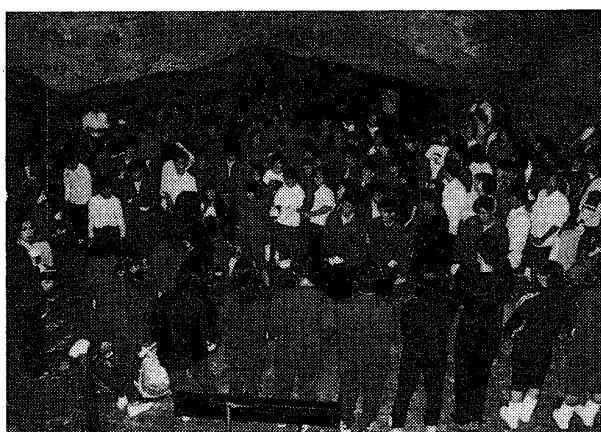
次の企画は、映画「月桃の花」の紹介である。一日目の夜に「月桃の花」のモデルである、安里要江さんから沖縄戦当時の体験談と戦後の生き方についてのお話を聞くので「沖縄戦－ある母の記録－」（高文研）を紹介したり、プリントを作成し、映画のキャストや沖縄戦の背景と映画の見所を知らせる。

その頃、一日目のアブチラガマでの平和セレモニーの持ち方と平和宣言文についての話し合いで「去年と同じようなものはやめよう」という意見がでた。代表が読むのではなく、平和宣言文を一人一人が一字ずつ自分の言葉で作り、それをみんなで順番に読む。という意見である。漆黒の闇の中での平和セレモニーは、沖縄戦当時の死と隣り合わせの住民の思いを、追体験することとともに、沖縄研究旅行の目的を確かめる意味がある。だから、この意見は貴重であり、みんなで千羽鶴を折り、それをリース（輪の形）にしてアブチラガマに眠る住民への鎮魂にしようという思いの延長もある。しかし、その新しい試みの難しい点は、真っ暗で足場が悪い上に、狭いガマの中で全員が順番に読むことができるだろうかということである。

話し合いの結果、平和宣言文の、朗読希望者を募集した。それに応募した中から7名による群読形式のものとなった。旅行直前に何回も練習しリハーサルが重ねられた。

実行委員を中心に自主的に企画された旅行最初の「平和セレモニー」は、みんなの心に残る印象的なものとなった。

群読形式で行われた平和セレモニー（アブチラガマにて）



千羽鶴のリース（平和祈念資料館にて）



平和宣言文

その昔、琉球王国があったこの地に、私たち先祖は戦争を持ち込みました。そして多くの人々の命を食べた時、その戦争は終わり、人々の命は消えていました。

私たちは今沖縄にいます。この暗いガマの中で、人々は「天皇陛下万歳」とお国のために死んで行きました。沖縄戦では米軍によって、あるいは味方であるはずの日本軍によって多くの人々の命がなくなったのです。

それから約半世紀、沖縄の地には広大な米軍基地が広がり、ごう音をたてて軍用機が頭の上を飛びかい、実戦ながらに、兵士たちは人の命を奪うための訓練を続けています。沖縄の人々は今も基地とともに生活しているのです。ここはまぎれもない戦場の一つなのです。

さて、日本には自衛隊が存在しますが、一体誰から私たちを守るのでしょうか。私たちにとって脅威とは何なのでしょうか。戦争を知らない私たちには答えることが出来ません。

戦争は何をこの国に残していったのでしょうか。時折水の音が聞こえるこのガマの大地は、流された血の赤さ、人の哀の冷たさ、人の心の醜さを今でも私たちに訴えています。

今、私たちの住む地球は疲れ切っているように見えます。人々の死によって、花々の死によって、動物たちが消えていくことで、私たちは何をすればいいのでしょうか。軍隊がなくなれば血は流れないのでしょうか。戦争を忘れた時、私たちはもう一度先祖たちの過ちを繰り返すことになるのです。

あるユダヤ人の女性は、第二次世界大戦が終わった時、こうつぶやきました。「100年、200年とたてば、人々はヒッターという侵略者を英雄と呼ぶでしょう。なぜならナポレオン一世も、アレキサンダー大王も、チンギス・ハーンも侵略者であるのに、人々は彼らを英雄と呼んでいるのですから」

この言葉のとおり私たちは100年、200年後、ヒッター、ムッソリーニと並んで第二次世界大戦において英雄をだすことになるのでしょうか。

私たちは戦争を知りません。戦争の本当の姿を知るために、こうしてここにきました。

そしてここに居る人々は戦争の眞の姿を私たちの目に焼き付けて下さいました。『戦争の愚かさ』『平和の尊さ』『命の大しさ』『人間の尊厳』『メチド・タカラ（命どう宝）』という目に見えない、音のないメッセージを残して下さいました。

だから、私たちはここに約束します。

これから四日間、戦争の実相から目をそらさず、そのすべてをしっかりとみつめることを。そしてこの沖縄研究旅行でえたものを胸に刻みつけることを。

人は元来優しい生き物のはずです。

優しさを失ってはいけません。

戦争は人を殺し、醜くさせます。

破壊はすべてを灰にします。

人から優しい心を奪っていき

優しい人を殺していく戦争。

それを許してはいけません。

それを忘れてはなりません。

二度と過ちを繰り返さないため、沖縄の真実を学び、未来へ語り伝え、世界の人々とともに「平和」の階（きざはし）を築き上げていくことを、私たちは今ここに誓い、宣言します。

アブチラガマにて 1998年11月17日

名古屋大学教育学部附属高等学校 第二学年一同

5. 沖縄文化との新しいふれあい

「上原令子コンサート」と「青年団のエイサー」

二日目の夜に、昨年度までは「喜納昌吉ライブ」であったが、その代わりとして、今年度はシンガーソングライターである「上原令子コンサート」と地元の青年団による「エイサー」にふれた。

手話も交えた「上原令子コンサート」は、歌に込めた思いと現在までの差別と挫折の中からどのように生きてきたかを語る言葉とが、切々と生徒たちの心にしみて静かな感動を呼んだ。

また地元の青年団による「エイサー」は力強い太鼓の音がホールに響きわたり、独特のリズムとさすがの迫力で、彼らと一緒に「エイサー」を踊る内に沖縄文化の精髓に肌でふれることができた。

上原令子さん



平和メッセージより

高校2年 A組4班

まず、第一日のメリーさんの話と安里さんの話では戦争で辛かったことを聞いたのだが、その次の日では上原令子さんの話、また、その次の日には、セイヤーミドリさんの話と差別についての大変な話を聞かせていただいた。だから、平和とは戦争がないだけでなく、差別がないということも必要だと思った。

僕は上原令子さんの話、歌に心を打たれました。ハーフということでいじめられ堕落した令子さんがキリストに出会い立ち直った事を聞き、自分も少しの至難は乗り越えていくと勇気づけられました。戦争は終わったけれど、米軍基地があるかぎり人々はずっと苦しみ続けるのではと思った。本当の平和がくるのはいつになるやら…！

旅行の中で、今日のことは絶対わすれない。アメラジアンスクールでふれあったみんなの笑顔はいつまでたっても忘れない。少しだけ話してくれた小学校でのいじめ話の中、表情の中から、私は自然にその子の悲しみのすべてを感じ取れた気がした。私は絶対にこれだけで終わらせたくない。どんなに小さなことでも良いので少しづつ広めていこうと思う。上原令子さんの話も、また、私の心中に残った。沖縄に来て本当に良かった。今日までの自分を振り返る事ができた。すべてが私の中に入ってきて、戦争の間違いを、心の旅から知れた。1つ1つがこれから私の変えることは間違いない事だと心からちかえる。沖縄の真実を語りつづけていきたいと思いました。アメラジアンスクールのみんなと沖縄の青い海に愛を込めて。

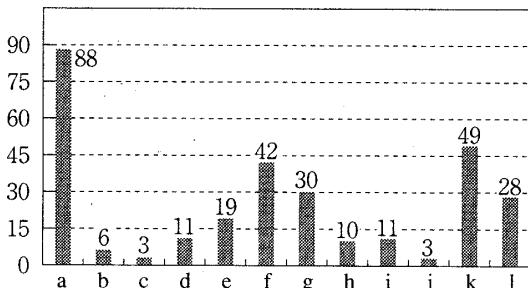
地元の青年団によるエイサー

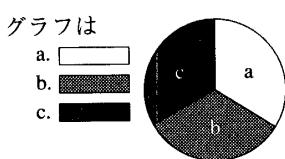


沖縄研究旅行アンケート結果より

今回の訪問地の中でもっとも印象に残っている場所は？（3つ選ぶ）

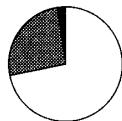
- a. アブチラガマ b. 嘉数高地
- c. 韓国人慰霊の塔 d. 平和の礎
- e. 平和祈念資料館 f. 大度海岸
- g. ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館
- h. 座喜味城跡 i. 象のオリ
- j. トリステーション
- k. 嘉手納基地・安保の見える丘
- l. 首里城





沖縄の訪問地について

アブチラガマ



- ・本などでしか感じることのできなかったガマの中を実際に体験できてよかったです。
- ・本当にすごく暗くてびっくりした。
- ・怖い、蒸し暑い。とてもこんな所には住めない。

A. 平和セレモニーの宣言文はどうでしたか。

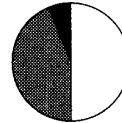


B. 千羽鶴をリース型にしたことはどうでしたか。



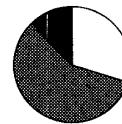
講演について

安里要江さんの戦争体験談



- ・絶対にこれを聞いてからガマに入りたかった。
- ・安里さんが涙を流してまで一生懸命にお話しして下さったのが嬉しかった。
- ・時間を忘れるくらい集中した。
- ・映画より鮮烈なこともあった。

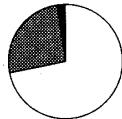
岩本兼一さんのお話



- ・ここに骨が埋っていると思うと感慨深い。
- ・53年前、海岸で人が死んでいたと思ったら座れません。
- ・崖がドクロに見えると思ったとき、何故か怖かった。

・ボロボロになった壁に触ってきた。

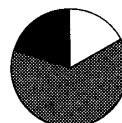
上原令子トークライブとエイサー



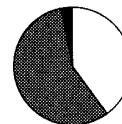
- ・上原さんのコンサートは涙が出そうだった。
- ・上原さんの生き方に感激／話の内容・歌がよかったです。
- ・太鼓がたたけてよかった／迫力があってすごくよかったです。
- ・エイサーのアンコールにかなりうけた。
- ・想像していたものとずいぶん違った。

フィールドワークについて

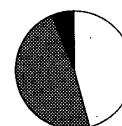
①フィールドワークでの事前学習への取り組みはどうでしたか。



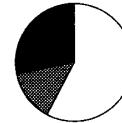
②現地でのフィールドワークの取り組み方はどうでしたか。



③テーマにそった研究ができましたか。



④フィールドワークの研究テーマは適切でしたか。

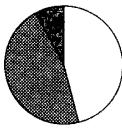


⑤フィールドワークのメンバーのまとまりはよかったです。



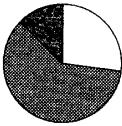
2. 高校2年 「国際理解・人権・平和」沖縄から世界を考える

⑥今回のフィールドワークでの成果は得られましたか。



- a. とても得られた46%
- b. ますます得られた46%
- c. あまり得られなかった8%

⑦旅行前に掲げた目的は達成されましたか。



- a. 達成された27%
- b. ほとんど達成された60%
- c. あまり達成されなかつた13%

⑧フィールドワークで訪れた中で特に印象深い場所・お話・出来事など

- ・米軍の実弾練習で山がはげてボロボロになっていたところ
- ・波平公民館：沖縄の人を困らせているのは、米軍だけでなく、日本政府でもあるんだなと思った。
- ・嘉手納村役場：飛行場を米軍基地がなくなつた後建てる計画らしいけど、住民はどうしても迷惑じゃんと思った。
- ・上原令子さん宅：上原さんが友人を呼んで下さって、思ったよりも沢山の人にお話を聞けた。
- ・琉球大学：本当はお話だけのはずが料理まで食べさせてもらえたこと。
- ・アメラジアンスクール：セイヤーミドリさんのお話／子供達との交流。
- ・嘉手納high school：授業に参加したこと。もっと英語を頑張ろうと思った。
- ・タクシーの中：沖縄の漢字の読み方・気候・果物・人の基地に対する考え方。
- ・玉泉洞王国村：予定してなかつたけど鍾乳洞に入つたらとてもすごくて感動した。

学年だより「階」より

映画「月桃の花」を見て（事前学習）

♥中3の時、広島に修学旅行に行って、その時、私達の班は、在日韓国人の人々の事を調べました。在日韓国人の人々は、日本の軍隊に入る為に日本につれてこられたのに、戦争が終わった時、日本の為に働いたはずなのに、韓国人ということで、日本人同様の待遇は与えられず、差別されづけてきたそうでした。中3の時、考えてみると、戦争が終わってからの事は、調べたけど、戦争中の事は、あまり調べてなかったと思います。

今回、月桃の花を見て、戦争中の本当の怖さを初

めて知った気がします。怖さと一緒に残酷さや悲しさ、むなしさなども私の心に残りました。そして、戦後の事を知る事も大切だけど、それだけで、戦争の事を知った気になっていた自分がいたことに気付きました。そもそも、考えてみると、沖縄=ひめゆりの塔ということしか知らなかつたなあと思います。高2になって、研究旅行の事前学習や、リーダーの授業の時に少しずつ沖縄の事を知つていきました。その中で、アメラジアンと呼ばれる、アメリカ人とアジア人の子供への差別の事を聞き、私は、その事について強く関心を持ちました。沖縄では、日本人は米軍基地を強く反対し、少女暴行事件やヘリコプターの音などに迷惑をしている事をリーダーで学んだのだけれど、表面的に見ると、沖縄は米軍の人々からの被害で困つていて、沖縄くアメラジアンみたいに思うけど、小さなところを追求していくとアメラジアンの子供の様に、ゴミ処理所の埋立地の跡地の上に学校が建つていて、その学校へしか通えず、その場所は、悪臭がひどく、病気にかかるたりする。日本の学校へ行くと、アメラジアンの子は、色々なひどいことを言われたりするのだそうです。今回の研究旅行では、ある程度自分の考えを持ち、対立しあう大人達の米軍基地問題の全てを知り、差別に苦しんでいる子供達の悲しみの原因と意味を見つけてたいです。

旅行を終えて

♥沖縄に行く前に期待していたことは、青い空に青い海という美しい景色だった。だから、天気が悪い、ましてや雨が降るなんて聞いた時には旅行の楽しみの大部分を失つたような気がした。しかし、青い空や青い海などの美しい自然だけが沖縄のすばらしさではないということを、普天間高校の高校生から教わった。

フィールドワークで普天間高校を訪れることになつていた。事前学習を自分たちなりにしたもの、まだまだ分からることはたくさんあつたし、簡単にあつかつてはいけない問題だけに、こんなにも知識のない状態で行っても相手に失礼ではないかと不安でたまらなかつた。そんな想いをめぐらせながら普天間高校に到着した。しかし一歩教室に入ると、そんな不安は吹きとんだ。沖縄の生徒はなんともあたたかく私たちを迎えてくれた。私はいつか英語の授業で習つたことを思い出した。“沖縄の人は寛大であり、気さくな付き合い方で有名だ”と、それを読んだ時、ちょっと島が離れているだけでそんなに本島の人と違うのだろうかと思った。彼らを目の前にしてやつとその意味が分かつた。もし逆にうちの学

校に来てもらって、こんなにも喜んで迎えてあげることは出来ないだろうなあと思った。しかも彼らはただ明るく接してくれるだけでなく、それぞれが、沖縄の平和を考え、それについて自らの意見を確立していることにも、とても驚かされた。私たちは、今まで色々調べてみたけれど、何かが欠けていたような気がしていた。それは自分の意見だ。一体自分は何を考えているのか、何を思っているのか、それが確立しないうちは、なんだかいつまでたっても、この平和という問題に深入り出来ないような気がした。

私は、彼らのように自分自身の考えをはっきりさせたいと思った。一人一人がそう思ふ始めることが平和への第1歩なのだと気付いた。今回私は、沖縄のもう一つのすばらしさを知った。それは目に映る美しい景色ではなく、私たちの心の中にしっかりと焼き付けられた彼らのあたたかい心だ。

♣僕は今回の旅行で沖縄の裏を見ました。裏というのは、日本によって捨て石に今でもされ続けているという事です。本土にいる若い世代の人が想像する沖縄というのは、おそらくリゾート地としての沖縄でしょう。

この考え方非常に良くない考え方です。沖縄というのは戦争の時には米軍の本土上陸を遅らせるための捨て石になり、現在では基地に関する問題によって困っています。また、沖縄は慢性的な水不足や本土から離れていて運搬に適さない事などから大企業がなく失業している人も多いのです。今回の知事選でも基地反対派の太田知事が敗れて、基地賛成派で米軍基地に労働の場を求めようという稻嶺氏が勝った事が現在の沖縄の人の苦しさを物語っています。

しかし、沖縄の人達はこれで良いのかという危機感が僕にはあります。もし、海上ヘリポートが作られる事になると確かに沖縄の人は失業する人が少なくなるかもしれません。ただ、それはリゾート地沖縄の死をも意味します。つまり、海上ヘリポートができるとリゾート地で働いている人の多くが失業します。つまり失業する人が増える事はあっても減ることがないと思います。そういうことが予想されるのに今回、太田さんが敗れたという事は悲しい事です。

僕は今回の旅行で自分の生き方に少なからず影響を受けた。そう思いたいです。なぜなら、もし僕が影響を受けていなかったら、沖縄の人達の叫びは僕に届かなかったということになります。それでは僕が沖縄に行った意味がなくなる、そんな気がするからです。

♣僕にとって今回の沖縄研究旅行は、今までの生き方、これから的人生を新たに考えさせるものだったように思う。僕は音楽をやっているが、2日目に上原令子さんのコンサートを観た時、歌や音楽はこんなに自分を正直にする事ができ、その素直な気持ちを大勢の人に伝えられる素晴らしいものだと思った。上原さんは音楽を始める前、いろいろな悪さをしていたと言っていた。僕も中学の頃はいろいろな悪さをしていたが、バンドを始めてから本当に自分が言いたい事や伝えたい事を斜に構えず、素直に歌で表現できるようになった。上原さんも同じように、こんなに大勢の人を感動させることができる。それに、上原さんは、「人生は何度もやり直しが出来る」と言っていた。僕は、全くその通りだと思った。逆に、やり直しのない人生ほど平坦でつまらないものはない。上原さんも、人生をやり直したからこそ、こんなに輝いている人生を送っているのだ。

次の日、僕達は嘉手納ハイスクールに行った。僕は実際に授業に参加した。しかし、本当に言葉の壁は厚く、僕の片言の英語ではコミュニケーションをとる事ができなかった。でも、僕にとってこの経験は、初めてでありとても新鮮だった。そして、本当に英語を勉強したいなあと心から思えた。

今回の旅行で得た人生のテーマは「英語でも日本語でも、自分の伝えたい事をしっかり表現しよう」ということでした。



6. 学校祭「総合人間科展示」の新しい取り組み

例年のパネルを用いた各学年の総合人間科活動紹介に加えて、98年度は「体験コーナー」が設けられた。そして、共に「平和、人権、国際理解」をテーマとする高2と中3が合同で「体験コーナー」の準備をした。高2が「沖縄クイズ」、中3が「広島クイズ」を作り、参加者が沖縄と広島についての興味関心を深められるように工夫した。

高2の「沖縄クイズ」は、出題者が問題を述べ、3つの答えを示し、参加者はその中から正しい答えを選ぶというものであった。参加者は1~3の番号のついた札を持ち、正しいと思う番号札を挙げ、ゲーム感覚で参加することができた。番号札はパイナップル、魚、紅葉と、沖縄と広島にちなんだデザインのものを作成した。正解を発表した後で、各問題について簡単な説明を加えたり、写真などを提示した。「沖縄クイズ」の問題は以下の通りであった。

「高2 沖縄クイズ」

1. 沖縄の島々はいくつあるでしょうか?
 ①60 ②100 ③160（正解）
2. 沖縄の海へもぐると、サンゴを見ることができます。さて、珊瑚は何でしょうか?
 ①植物 ②動物（正解） ③岩石
3. 沖縄は昔、独立した国家でした。何と呼ばれていたでしょうか。
 ①高麗 ②薩摩 ③琉球（正解）
4. 沖縄の言葉で、「命が一番大切だ」という意味の言葉があります。実際には沖縄方言で何と言うでしょうか。
 ①命ぞ宝（ぬちぞたから）
 ②命どう宝（ぬちどうたから）（正解）
 ③命でえ宝（ぬちでえたから）
5. 沖縄の米軍基地は、日本全国の米軍専用施設面積の何%でしょうか?
 ①75%（正解） ②60% ③50%
6. 沖縄県の県庁所在地はどこでしょうか?
 ①沖縄市 ②那覇市（正解） ③石垣島
7. 沖縄県が日本に復帰したのはいつでしょうか。
 ①1972年5月15日（正解）
 ②1972年6月15日
 ③1973年5月15日
8. 沖縄県にない交通機関は何でしょうか。
 ①バス ②タクシー ③鉄道（正解）
9. 名古屋空港から那覇空港まで飛行機でおよそ何時間かかるでしょうか。
 ①3時間30分 ②1時間30分 ③2時間30分（正解）

展示の内容は、一学期の「テーマ授業」の紹介と順位である。パネルの背景には委員で相談して、A組は沖縄の地図。B組は世界の地図。C組は日本の地図を選び、作成した。

展示パネルの内容を考えることから始まり、夏休みを挟んで、クイズを考えたり、番号札をつくったりと委員は時間に追われながらも、学校祭での展示が好評だったので充実感を味わった。

7 英語の授業と「総合人間科」との関連

英語の授業で2学期前半に総合人間科に関連した教材を利用した。三友社出版刊、室井美稚子、ミッセル・ポッター編著の「OKINAWA イントロダクション・沖縄」という英文のテキストである。

表紙に見事なシーサーの写真的あるこのテキストは、本校の沖縄学習の入門教材として適切なものであると考えた。この本には、沖縄県本島の地図、沖縄歴史年表、沖縄の主な米軍基地などの資料があり、沖縄学習の授業を進める上で便利である。また、写真や絵が豊富で沖縄を訪れる前にある程度視覚的な情報を得ることができる。

章の構成は、第1章「1月にお花見?」、第2章「満月の夜のドラマ」、第3章「イリオモテヤマネコに注意」、第4章「マングローブの森のひみつ」、第5章「エイサー、ハーリー、そしてシーサー」、第6章「琉球王国から沖縄県へ」、第7章「チビチリガマとシムクガマ」、第8章「ひめゆりの塔と平和の礎」、第9章「高校生は訴える」、第10章「動き始めたアメリカの良心」である。

授業では、まず教師主導型で第2章「満月の夜のドラマ」、第3章「イリオモテヤマネコに注意」と付録の「絵で見てわかる沖縄現代史」と「豚のトントン」の英文を読んだ。

次に、生徒たちは、研究旅行の6つの班で英文を分担して学習し、班ごとに生徒が授業を行った。生徒が授業で取り上げた章は、第5章「エイサー、ハーリー、そしてシーサー」、第6章「琉球王国から沖縄県へ」、第7章「チビチリガマとシムクガマ」、第8章「ひめゆりの塔と平和の礎」、第9章「高校生は訴える」、第10章「動き始めたアメリカの良心」である。

9月から「OKINAWA イントロダクション・沖縄」を読み始め、10月初旬に読み終わり、生徒には付録の全訳付き解答集を配布した。このテキストの授業で扱った箇所が中間試験の範囲として出題された。評価は、班での学習、発表などの活動について自己評価とグループ内相互評価を行い、中間試験の得点

に加えて英語の成績とした。

生徒たちはこの教材について、「テキストの絵や写真が美しい」、「沖縄特有の用語がわかった」、「シムクガマの老人が英語が話せたので人々は自決を免れた」、「仲村清子さんのスピーチはすばらしい」、「普天間高校へ行きたい」、「琉球文化は興味深い」、「沖縄の米軍基地撤廃あるいは縮小を唱えるアメリカの知識人がいることがわかった」、「平和の礎に名前を刻まれない韓国・朝鮮の慰安婦にされた女性たちもいることがわかった」など、様々であった。

総合人間科と関連して教科で本書を英語教材として扱ったことは、生徒が沖縄について初めて学び、興味関心を深めることができた点で成功であった。沖縄の自然、歴史、文化、社会問題などについての英文を、写真や資料を参考にしながら、グループで情報交換し協力して英文を読み進めることができた。「ガマ」に相当する英語は"cave"であることなど、異なる視点から沖縄学習ができた。

学校祭の総合人間科の展示・体験コーナーで「沖縄クイズ」を行った際に、2番の問題で「沖縄の海へもぐると、サンゴを見ることができます。さて、珊瑚は何でしょうか？ ①植物 ②動物 ③岩石」という問題があったが、正解の「動物」を発表した後で、司会者は本書を開いて「サンゴの産卵」の写真を見せて説明した。生徒たちにとっては、写真は大変印象深いものであった。

8 評価について

授業の度に自己評価や相互評価を実施したが学年末には「総合人間科」の一年間の取り組みを次のように評価した。

指導教官別に、班単位で自己評価と相互評価と教師評価の合計による総合評価にコメントをつける形である。一人の教官が担当している15名～23名の生徒の評価を学年会にもちより、全体の評価を検討して調整した。生徒同士の相互評価の平均と教師評価は、概ね一致する場合が多い。一方、一年間よく取り組んだにもかかわらず厳しい自己評価をする生徒がいる。また、その反対もいる。厳しい自己評価と甘い自己評価のそれぞれ問題点については、コメント評価において取り上げ、理由を説明し評価した。

9 おわりに

個人研究からグループ研究へと発展した高校二年生の総合人間科の一年間の取り組みをふりかえると、総合人間科の委員を中心とした生徒ひとり一人の自主的で生き生きした活動であったといえる。

また学年担任団を始めとして、英語や各教科での沖縄学習へのひろがりがあった。

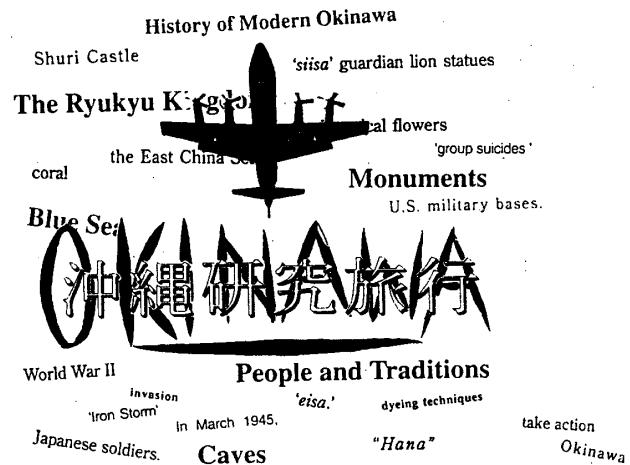
これらの取り組みが高校三年生でどのように発展していくか、また教科の授業でどのように学び直されていくのか、がこれから課題である。

(文責 斎藤、仲田)

総合人間科活動日誌

4月18日	オリエンテーションとテーマ授業への準備 全体と保護者への説明 各クラスでのテーマ授業への準備 研究グループのテーマを選ぶ	
4月30日(木)	指導教官との打ち合せ テーマ確認	
5月30日	テーマ授業についての調査・研究1 発表準備	
6月 6日	テーマ授業についての調査・研究2 発表準備 リハーサル	
6月20日	テーマ授業の発表会	
7月 4日	沖縄研究旅行全体説明会	研究グループ編成
7月10日(金)	「共同の中での学び合い」	教育学部助教授 植田先生
9月 5日	研究テーマ決め 訪問先 事前学習プリント 千羽鶴 平和宣言文	
9月17日(木)	訪問地決め 指導教官決定	
9月19日	研究グループ別事前学習	フィールドワーク行程
10月 3日	映画「月桃の花」鑑賞	
10月31日	指導教官別 ディスカッション	訪問依頼状作成
11月 7日	フィールドワーク発表会	
11月12日(木)	クラス別 事前指導	
11月16日(月)	係り別 諸連絡	
11月17日～20日	沖縄研究旅行	
11月21日	研究旅行のまとめ・お礼状書き・感想文	
12月 5日	研究集録原稿書き	
1月16日	クラス別研究旅行フィールドワーク報告会	
1月30日	研究集録原稿書き 高1への沖縄研究旅行報告会の準備	
2月 6日	高1への沖縄研究旅行報告会の準備 リハーサル	
2月18日(木)	高1への沖縄研究旅行報告会	
2月20日	全体と保護者への発表会	
2月25日(木)	総合人間科の自己評価・相互評価	

しおり表紙



2. 高校2年 「国際理解・人権・平和」沖縄から世界を考える

高2研究旅行 行程表

1日目 (11月17日 火曜日)	名古屋空港 → 那覇空港 → アブチラガマ → 那覇市内ホテル(ホリディインエクスプレス)泊 9:45集合 11:00発 13:30 15:10 17:35 「平和セレモニー」 講演 安里 要江さん「母親の立場で語る沖縄戦」
2日目 (11月18日 水曜日)	那覇発 → 嘉数高地 → 平和記念公園(韓国人慰靈の塔—平和の礎—平和祈念資料館) 8:00 8:30 10:10 10:50 11:15 → ひめゆりの塔(昼食) → 大度海岸 → ホリディインエクスプレス泊 12:30 15:00 16:50 「講話 岩本兼一さん」「上原令子トークリブとエイサー」鑑賞
3日目 (11月19日 木曜日)	ホリディインエクスプレス → タクシーによるグループワーク → 石川市ホテル(ココガーデンリゾートオキナワ) 先発 9:45 後発 9:30 先発 15:30 後発 16:00
4日目 (11月20日 金曜日)	ココガーデンリゾートオキナワ発 → 座喜味城跡 → ゾウのオリ・トリイステーション 8:00 8:30 9:35 → 安保の見える丘 → 首里城公園(昼食) → 那覇空港 → 名古屋空港着・解散 10:05 11:25 14:00 15:05発 17:00 17:40

フィールドワーク 行程表

組・班	テー マ	行 程 (午前)	行 程 (午後)
A・1	私たちと沖縄の人の認識の違い	那覇市内の沖縄県立美里高校	沖縄タイムズ編集局政経部 銘苅達夫さん 那覇市久茂地2-2-3
A・2	国際理解と基地問題	県庁基地対策局 上原渙さん 那覇市泉崎1-2-2	県会議員知花さん宅 中頭郡読谷村波平174
A・3	沖縄の食と長寿	国際通り市場	琉球大学教育学部家政学科 金城先生 西原町千原1
A・4	アメラジアン・さまざまな差別と時代のうつり変わりAMERASIAN OKINAWAN	アメラジアンスクール・イン・オキナワ(AASO)セイヤー・ミドリさん(アメラジアンスクール事務局長)宜野湾市大山3-13-16	琉球村(恩納村)万座毛(恩納村) 上里和美先生
A・5	伝統工芸	沖縄工芸村 玉城久枝さん恩納村字恩納6203-1	芭蕉布会館 平良恵美子さん
A・6	サンゴについて	県庁自然保護課 那覇市泉崎1-2-2	琉球大学理学部水産学科 西原町中城南上原858
B・1	夢を喰う島	米軍基地問題特別委員会 那覇市泉崎1-2-3 県会議員新垣善春さん	嘉手納町役場 嘉手納町588 共栄ガラス工房
B・2	触れて歩く沖縄民芸の旅	永和三線工房 近藤開己さん 浦添市屋富祖1-4-10-202	伝統工芸館 那覇市字当間1-1
B・3	基地が人々の生活に与える影響	ぎのわんセミナーハウス 又吉京子さん	金武町役場
B・4	沖縄の自然	日本サンゴセンター 那覇市西2-3-12 琉球大学理学部海洋自然科学科 日高道雄先生	かりゆしビーチ(グラスボート乗船)万座毛 中頭郡西原字千原1
B・5	命を探るヌチドゥタカラ	大城立裕先生(ホテルでお話を聞く) (連絡先)那覇市汀良町3-59	牧志公設市場
B・6	平和への思い	普天間高校 島袋先生と生徒 宜野湾市普天間1-24-1	バイナップルハウス
C・1	アメラジアン問題	街頭アンケート	上原令子さん宅 読谷村字古堅72-6
C・2	基地の及ぼす影響	読谷村役場企画文献推進課 城間さん 読谷村波平37	ヘリポート建設阻止協議会 命を守る会 名護市字辺野古243
C・3	沖縄の食~魚介類を追え!~	県庁農林水産部農業推進課 那覇市泉崎1-2-2 専門技術員 垣花千恵さん	牧志公設市場 那覇市松尾
C・4	日本の中の外国IN嘉手納基地	嘉手納基地 牧師 松本義雄さん ティモティ=フリンソンさん	Kadena High School
C・5	食文化から社会を知る	牧志公設市場 那覇市松尾	ヤンバル農協東支所 宮城さん
C・6	沖縄の伝統工芸	玉泉洞王国村 屋良さん 玉城村字前川1336	沖縄県立芸術大学工芸科 那覇市首里蔵町1-4